393
148

四季草木水揚法

始

大日本華道ひろめ會編

四季草木水揚法

全

大日本華道ひろめ會發行

大日本華道ひろめ會編

四季草木水揚法

全

大日本華道ひろめ會發行

393-148

四季草木水揚法目錄

一、四季草木葉の心得
二、四季草木の水揚法の心得
三、イタドリ草、ルリトラノチ、イヌカルカヤ、萩、ニホヒタデ、荻、ヌカボタデ、七ヶ條水揚法心得
四、ワレモカウ、カラダイワウ、カンナ、ダリア、弟切草、オモダカ、草牡丹、葛、八ヶ條水揚法心得
五、藤菊、孔雀草、藤袴、二葉萩の四ヶ條水揚法心得
六、天竺牡丹、粟、百日紅、怕痒樹、の四ヶ條水揚法心得
七、櫻蓼、秋牡丹、紫苑、秋海棠、の四ヶ條水揚法心得
八、姫紫苑、千日草、千日紅、チバナ、芒、ハボタン、蕃特丹、甘藍、細辨、燈心草、藺、琉球藺、蕎麥、石蕗、蓁吾の十五ヶ條の水揚法心得
九、石蕗、藍、金線草、水引草、雨久花、磯菊、濱紫苑、濱菊、小山小車、の九ヶ條水揚法心得
一〇、カセンサウ、苅萱、メガルカヤ、ムギボカルカヤ、龍腦菊、女郎花、男郎花、の七ヶ條水揚法心得
一一、萬年草の水揚法心得
一二、梅、桃、海棠、柘榴、梨、林檎、の六ヶ條水揚法心得
一三、金雀花、棣棠、金絲梅、郁李、櫻李、櫻桃、庭櫻、錦帶花、こてまくり、藤、の十ヶ條水揚法心得

大正 4 2 6 内交 10

一四、辛夷、玉蘭、木蘭、李花、杏花、石南花、華曼草、紫草、芍藥、牡丹、の十ヶ條水揚法心得
一五、合歡木、楝花、百日紅、千日紅、煎夏羅、擅特、美人草、山梔花、杜鵑花、燕子花、百合、貝母百合、山丹、鳴子百合、の十四ヶ條水揚法の心得
一六、河骨、澤桔梗、紫羅、瓢花、花菖蒲、の五ヶ條水揚法心得
一七、蓮の花、水揚法心得
一八、蜀葵の水揚法心得
一九、眞竹、竹、寒竹、孟宗竹、島竹、臺灣竹、支那竹、唐竹、の八ヶ條水揚法心得
二〇、菊花の水揚法心得
二一、秋牡丹、桔梗の二ヶ條水揚法心得
二二、旋覆花、の水揚法心得
二三、煎紅紗、藤撫子、紫菜莉、の三ヶ條水揚法心得
二四、朝顔の水揚法心得
二五、野菊、紫苑、龍膽、山椿、山茶花、茶の花、寒菊、款冬、枇杷、蠟梅、迎春梅、瑞香、八手、の十三ヶ條の水揚法の心得

四季草木水揚法　目錄　終

四季草木水揚法

一、四季草木養の心得

それ草木を養ふには一年卽ち春夏秋冬の四季の內にて各々陰陽の消長に隨ひて伐りたる草木を養ひて生々と性氣を保たしめる爲なり、四季の時候に應して養ふ之れを眞、行、草の養ひ方と稱す。

一、眞の養ひとは夏より秋までの草木を養ふ方法なり、夏より秋までの時候は大陽なり故に陽中陰なる時氣なれば萬物中に陰氣を含むよりて人間を初め草木、禽獸、虫に至るまで自然に病多し、且つ切りたる草木は陰氣を含む事甚だし是れ活物に例へは病を更けて毒氣を含みたるが如し毒氣は則ち陰氣なり故に切りたるままにて冷水に漬ける時は陰に陰を合したる故を以て養ひとならずして次第に其

の體を損じてうれゐなり、故に其の品の根を熱湯の中に五分或は一寸も其の丈に應じて程よく入れ篤と主體に陽氣を含みたる頃其の根を冷水へ漬け三時間位の後ち水を揚げたる頃出して挿花に愛用するなり之れ眞の養ひと云ふ。

一、行の養ひとは春より夏までと秋より冬までの草木養ひ方を云ふ、此の兩度は少陽少陰の時候にて暖寒に片よらず陰陽和合なるが故に人體も安らかなり、尚草木其外一切の活物は病變少し故に草木を伐るは其の時陰氣を含む故に是れを養ふには其の品の根を炭火の中に入れ一、二寸亦は三、四寸も燒き取り主體に篤と陽氣を含みたる頃根を冷水に入れ置き三時間餘も過ぎて是を挿花に愛用するなり之れ行の養ひと云ふ。

一、草の養ひとは冬より春分までの草木の養ひ方を云ふ此の時候は大陽の時にして陽中陰なれば萬物中に陽氣を含むが故に病損すること少し草木の養ひは伐たるままにて其の品の根を程よく冷水に入れ置き三時間も過ぎて愛用するなり、例

へば夕方冷水に入れたる時は翌朝早く挿けてよし之れを草の養ひと云ふ。

二、四季草木の水揚法の心得

一、切り花の水揚法は陽分色々と方法がありまして古來より生花では水揚法を非常にむつかしいものとしてあります、西洋花の水揚も我國の生花水揚法と同樣で草花の種類によりて其の方法は一樣でありません、それゆゑ、どの草花も同じ方法でよいとは申されません。

二、水揚に使用する藥品は砂糖、食鹽、鹽酸、硝酸、酒精、明礬、山椒、石硫黃、灰汁、煙草ヤニ、又灰、薄荷油、石灰、オハクロ、白水、等を使ひます。

三、切花は切ります時間によりても持ちが大變に違ひます、日出前か日沒後に切つたものは水をよく揚げますが日中に切りたものは水揚げがよくありません。

四、水揚法をいたしたものを挿けるのですが、しかし、それまでにせずとも唯

だ毎日新らしい水と取換へさへすれば永く水を揚げるものであります。

五、二、三日經つて花が少し萎れたらば切口を五分か一寸位切り取つてそれを水揚して挿けますと再び活々としてまゐります。

六、伐り取りたる草花は倒にして伐口を上にして持ち運ぶをよしとす。

七、眞、行、の水揚法を行ふ節は葉や花の陽氣に合ぬ樣に必ず濕めりたる布片にて包て取扱はねばなりません。

三、イタドリ草、ルリトラノヲ、イヌカルカヤ、萩、ニホヒタデ、荻、ヌカボタテ、七ケ條水揚法心得

一、イタドリ草、は莖の切口を酒精に一寸浸して水に入れるか又切り口を燒いても宜いことがある時候によるなり又切口を鹽で揉んで水に入れてもよし。

一、ルリトラノヲ、一名ハクゼンサウは切り口に熱湯を注ぎて後ち冷水に漬けるると水揚るなり。

一、イヌカルカヤ、一名ヲガルカヤは根本を湯で煑て水に入れ鹽水を葉にかけるか又は明礬水で煑て水に入れ鹽水を葉にかける、又は消炭の火で切り口を燒いて水に入れ鹽水をかけるか又は切口を酒精に浸し水に入れ葉に鹽水をかけるとよい。

一、萩は、指を入れて堪へられる位の溫度の湯に入れて置くなれば湯の冷めるに從て水の上るものであります、花瓶に其まま湯を入れても宜し、又山椒の煎じ汁で煑て冷水へ入れるか、又胡椒粉を切口へ揉み込むでもよし、此の兩法によるときは、一旦萎れたるものも生々とします、又德利の如き口の狹い器へ石硫黃を入れ、其の上に水を注いで挿し込み器の口から氣の漏れぬ樣に充分煑れば宜しくしてよく水を上げます。

一、ニホヒタデ、香蓼は切口を酒精に浸して後ち冷水に入れるか、又鹽食で根

本を揉んで冷水に入れるもよし。

一、荻、一名オギヨシ、ウミガヤ、は切口を酒精に浸すか又は酒にて煑て水に入れるか尙ほ葉に鹽水をかければ効力更によし。

一、ヌカボタテ、糠穗蓼は切口を一寸酒精に浸して冷水に移す、又は根本に食鹽を揉み込んで冷水に入れるもよい、水揚も容易である。

四、ワレモカウ、カラダイワウ、カンナ、ダリア、弟切草オモダカ、草牡丹、葛、八ケ條水揚法の心得

一、ワレモカウ、吾亦紅は切口を酒精に浸して後ち引き上げ冷水に入れるとよし。

一、カラダイワウ、一名オホシ、は切口を熱湯中に入れて煑留めて成るべきは同じ長さの細い竹などへ結び副へて二、三時間程水中へ全部入れ置くなり、又食

鹽を切り口へ揉み込んで冷水に入れるもよし、又酒精の中へ切口を入れて暫時にして冷水に移すもよし。

一、カンナ、一名オランダダンドク、は夏は全體を包んで切口を湯で煑るか、又は秋は消炭の火で燒いて冷水に入れるもよし、又切口に煑湯をかけて冷水に漬けるも佳なり。

一、タリア、一名天竺牡丹、は切口を炭火にて燒いて一夜水に浸し置くか、又切口を酒精に浸して冷水に移す、又は早朝三時頃に切るか又は夕方に切つたものは別に水上をしなくてもよい。

一、弟切草は切口を酒精に浸し暫時にして冷水に入れると水上るなり。

一、オモダカ、澤瀉、はクワヰと同じ水上法で番茶を濃く煎じて充分に冷却したるものを水上筒で徐々と切口の孔から注入して冷水に漬けるか又切口の孔はセメント又は鬚附油のやうなもので塞ぐか、又は長い毛髪を幾條もまとめて根本を

堅く縛ばるか又折り曲けて置く、此の方法による時は無水生が出來ます、又灰汁を用ひてもよい、併し灰は煙草の灰を混じたものは用ゐられない、尙ほ根本から葉身の附着した點まで竹の揚子の樣なもので上皮ばかりを割いて灰汁の中に根本を漬けるとなか〳〵水がよく上ります、但し花や葉は水上げをしなくとも宜し、又成る可くは葉を選ぶに新古の中間の艶のよいのを採らねばなりませぬ、又切る前に切らんとする部分を豫め縛つて置くもよく、又切口の孔へ泥を詰めても水が上るけれども之れは餘り感心の出來ないのは挿ける水を汚す事であります、自分で切る場合は成るべく朝露のある時か最もよいのである。

一、クサボタン、一名鈎鐘草、は根本に煑湯をかけて後ち冷水に移す、又切口を酒精に浸し少時經て引き上げ冷水に入れるとよい。

一、クズ、葛、は切口を酒精に浸して後ち冷水に深く漬けるとよいのである。

五、藤菊、孔雀草、藤袴、二葉萩、四ケ條水揚法心得

一、クジャクサウ、藤菊、一名孔雀草、は根本を熱湯に挿入れて冷水に移す、出來れば朝、夕に剪り取りて致します。

一、ブシハカマ、一名、蘭草、藤袴、は切り口を酒精に浸して冷水に入れるとよい。

一、フタバハギ、二葉萩、は指を入れて堪へられる位の溫度の湯に入れ置くならば湯の冷へるに從つて水の上るものであります、又山椒の煎汁で煑て冷水へ入れるもよくあります。

六、天竺牡丹、粟、百日紅、柏痒樹の四ケ條水揚法心得

一、テンヂクボタン、は切口を炭火で燒いて一夜水に浸し置けば水上り生々と

します、又切口を酒精に浸けて水に移すもよい。

一、アハ、粟、は切口を酒精に一寸浸して冷水に入れ置くもよい。

一、サルスベリ、一名百日紅、怕痒樹、は切口を一寸酒精に浸して冷水に入れるとよい。

七、櫻蓼、秋牡丹、紫苑、秋海棠、の四ケ條水揚法心得

一、サクラタデ、櫻蓼、は根本を酒精に暫時の間浸して後ち冷水に入れる、又根本を食鹽で揉んで水に入れてもよく水上ります。

一、キブネキク、秋牡丹、は根本を熱湯に浸して冷水に入れるか、又根本を燒いて冷水へ移し置くか、又白汁の出る迄で打ち挫いて冷水に入れるか尙食鹽で揉んで冷水に入れるもよし。

一、シヲン、紫苑、は切口を酒精に一寸浸して冷水に漬けるとよい、又根本に

熱湯をかけて冷水に入れるもよい又根本を一寸「ハッカ」油に浸して冷水に入れてもよし。

一、シウカイダウ、秋海棠、は切口を酒精に一寸浸して冷水に入れるか又明礬水に切口を浸して水に入れるもよし、又節々を三分程づゝ剃刀で竪に割るか、又は細い竹の揚子で節々を向ふまで突き拔き節間は上皮はかり竪に割りて逆にして水を多く灌ぐか、尙又之れを深く水中に入れて三時間ばかり日ざしの遠き處に置くとよい、又なるべきは日向に生じたものを選び又出來得べくは早朝か夕に剪るをよしとす、又煙草のヤニを水一合に二割を混じて挿けるもよい、又此の花は竹の器に入るゝよりは磁器に入れ置くがよいものであります。

八、姫紫苑、千日草、千日紅、チバナ、芒、ハボタン、蕃特丹、甘藍、細蘭、燈心草、蘭、琉球蘭、蕎麥、石稿、稾吾、

の十五ケ條の水揚法心得

一、ヒメシオン、姫紫苑は、俗に稱ふるものはシヨンの小形の如きもので花の色は矢張り紫色である、之れはコジヨン、(小紫苑)と言ふものである、眞のヒメシヨンは他の種類で野原に夏より秋にかけて生ずるもので花は白色であります此のコシヨンの水上は切口を酒精に一寸浸して冷水に入れるか、又は根本に熱湯をかけて冷水に入れるか、又根本を一寸薄荷油に浸して冷水に入れるもよし。

一、センニチサウ、千日紅、千日草、は切り口を酒精に一寸浸して冷水に入れるか又は明礬水に切口を浸して水に入れる事もよい。

一、ヲバナ、芒、は切口を切り打ち挫いて酒精に浸して水に入れるか、又根本を打ち挫いて酒で充分煮るか又は根本を湯に入れるか、又切口を消炭の火で焼きて冷水に入れるもよい、又葉に鹽水をかけるもよし。

一、ハボタン、一名タマナ、(蕃時丹、甘藍)、は別に水上法を要せず、唯切り取ると切り口を上にして逆水をかけて暫時の間放置してをけばよい。

一、ホソヰ、トウシンサウ、ヰ、リウキウヰの四種は別に水上は必要でないが水に漬けて置けばよいのである。

一、ソバ、蕎麥は、切口を酒精に浸して直に引き上げて冷水に入れるか、又食鹽を根本に揉み込んで水に入れるがよし。

一、ツバブキ、蜀吾、石稿、石蕗、は根本へ食鹽を附けて焼いて、水に入れるか、花器の中には石灰水を入れるがよい又根本へ椿の油の如きものを塗つて、ロウソクの燈火で其の油を焼き水に入れる、又次に水中にて其の焼かれた部分を切り落して圍つて置くか、又根本を熱湯の中に入れるか何れの方法によるもよし、但し花は日向に生じたものは生けよいが陰の花はしをれやすいものである。

九、石蕗、藍、金線草、水引草、雨久花、磯菊、濱紫苑、濱菊、小山小車、の九ケ條水揚法心得

一、石蕗は前同斷のこと、

一、藍、アイ、は切口を一寸酒精に浸して冷水に入れるか、又は根本を食鹽にて充分に揉んで冷水に入れるとよい。

一、ミヅヒキグサ、金線草、は湯に根本を暫時の間浸し水に移すと暫らくにして水の上るもので若し出來るなれば朝露のある時に剪り取りますとよく保ちます又根本を酒精に一寸浸して冷水に入れるもよい、又は切口に食鹽を揉み込んで水に入れるもよい。

一、ミヅアオヒ、雨久花、は針金に脱脂綿を卷き附けて莖の中心の薄膜を徐々と破り水上筒で木灰汁又は茶汁、或は水を注入して其の綿を卷きたる針金で栓を

するのであります、切口を能く綿でふさぎ置くならば見事に無水挿けをする事が出來る、此の方法なれば一週間は大丈夫で水に入れたものは半月位は保つものである。

一、イソキク、ハマシオン、ハマキク、ヲヤマヲグルマは切口を酒精に一寸浸し冷水に入れるか、又根本に熱湯をかけて冷水に入れるか、又は根本を炭火で焼いて冷水に浸してもよい。

一〇、カセンサウ、苅萱、メガルカヤ、ムギホカルカヤ、龍腦菊、女郎花、男郎花、の七ケ條水揚法心得

一、カセンサウ、カルカヤ、メガルカヤ、ムギホカルカヤ、リウナウギク、は切口を何れも酒精に一寸浸して冷水に入れるか、又は根本に熱湯をかけて冷水に入れるか、又根本を炭火で焼いて冷水に入れてもよい。

一、ヲミナヘシ（女郎花）、ヲトコヘシ（男郎花）、は根本を湯で煑て水に入れるか、又切口を酒精に浸し直に冷水に移すもよいのである。

一一、萬年青の水揚法心得

一、オモトは水揚をする必要はなきも根本を揃へ、熱湯中に挿し其儘板間等に置き一時間ばかり放置して水に入れるならば生けるに大變具合よい。

一二、梅、桃、海棠、柘榴、梨、林檎の六ケ條水揚法心得

一、梅、は切口を火で燒いて焦して其まゝ生けます、元來梅は生氣の極て強いものでありますから右のように焦さなくとも能く水揚げることの出來るものである、併し花屋などにあつて久しく經たるものならば、右の様に焦し、泥を其切口に塗つて挿けますと、小さき莟に至るまでも悉く開花するものであります。

一、桃、は梅と同じ方法にてよし、又花器の中に陽起石を入れて挿けますと久しく保ちて花葉ともに凋みませぬ。

一、海棠、は花器の中に薄荷の葉の搾り汁を入れて挿して置きます、若し、生葉のないときは乾葉を煎じ出し、其の水を花器の中に入れ生けます、但水一合に薄荷四匁内外の割合のこと。

一、柘榴、は切口を焦して黄芪を煎じて冷したるものを冷水に混合して漬けるとよく水を揚げます。

一、梨、林檎、は菜根の搾り汁を花器の中に入れて、切口より一寸位は皮を剝ぎて漬けるとよく保ちます。

一三、金雀花、棣棠、金絲梅、郁李、櫻李、庭櫻、錦帶花、こてまくり、藤、の十ケ條水揚法心得

一、エニシダ、ヤマブキ、クサヤマブキ、以上三種はいづれも槌にて莖の根本を敲きくだいて挿けるもよし、又花瓶の中に土殷藥の粉末を少しく入れて挿けますと、花葉ともに勢がよくなり久しきに堪へ得るものである。

一、ニハウメ、ユツラ、ニハサクラ、ハコネウヅキ、以上四種は切口を一寸ばかりの間を能く炭火で焦し其のまゝ冷水に入れると水を揚げます。

一、こてまくり、此の花は其の莖の端を金槌で碎いて冷水に漬けるとよいのである。

一、藤の心得、藤は、切り取るときは朝早く日の出前に切り切口の部分に酒を塗り焚火であぶり後ち冷水にて冷すか又水を用ひることなく空挿けをするには酒のかすを切口に附けて置くときは一週間位はしをれることなく花も散りませぬ、最も切り時に注意して致す可きことなり。

一四、辛庚、玉蘭、木蘭、李花、杏花、石南花、華曼草、紫草、芍藥、牡丹、の十ケ條水揚法心得

一、コブシ、ギョクラン、モクラン、以上三種は切り口を一、二寸炭火にて強く燒き割石腦をはさみて冷水に漬けると能く水を揚げます。

一、杏花、李花、以上二種は切口を炭火にて焦がして其のまゝ冷水に入れて水揚りて後ち挿ける。

一、石南花、は切りて根本を碎き泔汁の中に入れて水揚りて後ち挿ける。

一、華曼草、紫草は最も凋みやすいものですが切り取りて胡椒を根本にはさみて冷水に漬けるか又は瓶中に胡椒を刻んで入れ置くなれば能く保ちます。

一、芍藥、草牡丹、以上二種は切口を炭火にて燒き冷水に漬け水の揚りて挿ける、又永く保つには夜は取りて風の當らぬ様に横に臥さして、草葉に冷水を注ぎ

置き朝になりて挿け直すと能く久しく保ちます。

一、牡丹、は切口を炭火にて焦し冷水に漬けますか、又花瓶に少しく蜜を混じて挿けますと花は久しく保ちます、又蜜ばかり入れて挿けるもよい。

一五、合歡末、山梔花、棟花、百日紅、千日紅、煎夏羅、擅特、美人草、杜鵑花、百合、山丹、貝母百合、鳴子百合、の十四ケ條水揚法の心得

一、合歡末、棟花、百日紅、以上三種は元來切口を燒くはよくない、故に瓶中の水に鍾乳石の粉を一匁内外を入れて挿けるをよしとす、又根本に割細辛をはさみて置いて挿けるもよい。

一、煎夏羅、千日紅、以上は節を竪に少しく割りて冷水に入れるをよしとす。

一、擅特、美人蕉、以上二種は沙參の煎じ汁で沙參の粉を混和したるもの丶中

に挿けるもよい。

一、山梔花、切口を少しく削り鹽水の中に漬けるか又は水を用ひずして鹽ばかりにて挿けるもよい。

一、杜鵑花、は水の中に泔汁を入れるときは花は能く保ちます。

一、燕子花、は節を竪に少しばかり割りて之れを冷水に入れるとよく水を揚げます。

一、百合、ハイモ、ヒメユリ、ナルコユリ、以上四種は何れも根元を少しく燒き砂糖水に漬けるとよく水を揚げます又花瓶に砂糖を混じて置くもよい。

一六、河骨、澤桔梗、紫羅、禰花、花菖蒲の五ケ條水揚法心得

一、澤桔梗、河骨、の二種は花葉ともに凋み易いものでありますが、初め其の

格好を見斗ひ、挿けるときは早朝に切り取りて其の根元を揃へ一寸ばかりの間を熱湯に浸し其の後ち冷水に入れてよく水の揚りて挿けるなり、又は根元を少し割りてこれに山椒を少しはさむもよい、又最もよく水揚りの出來る方法は龍吐水を根元より注ぎ入れると一日位は其のまゝで保ちます、尙ほ其の座では葉や莖の色が變りますが直に水揚りて元の如く回復して艶はよくなるものである。

一、紫羅、禰花、花菖蒲、の三種は燕子花に準じて水揚を致します、花に水を灌がず、又根元も燒かないのである。

一七、蓮の花水揚法心得

一、蓮花、は早朝に切り取りて花を倒にして其の莖の切口に泥を塗りて、其の穴を塞ぎ、切口を花器に附けて後ちに鐵漿を少しばかり水に混じ置きますとよく保ちます、又、無水挿を致しますには鐵漿水を切り口より注ぎてピンツケか又は

折り曲げて糸で根元を結び置くとよい其のまゝで無水挿けが出來ます、甚だ面白いものである。

一八、蜀葵の水揚法心得

一、蜀葵は根元を炭火で燒き後ち冷水に入れ水揚りて挿けます、尙ほ瓶中に石灰を少しく入れて水を注ぎますとよく保ちます。

一九、眞竹、竹、寒竹、孟宗竹、島竹、臺灣竹、支那竹、唐竹の八ケ條水揚法心得

一、竹類、竹は四季を通じて挿けますが最も多く用ゆるは、夏季でありますから充分に用意して方法を究めなければなりませぬ、先づ三節又五節にても好みに切り取りて其の枝を葉を以てくる〳〵と卷き附て置きます、そうして根元に近き

節は其のまゝにして上より節を貫き通し穴を明けて清酒を穴より注ぎ込み一杯にして上部を大根の類で栓をして酒の出ぬやうに致します、そうして冷水に漬けて置きますとよいのである、それから葉には「にがり」を水でうすく致しまして塗りますと葉の色がよくなり又凋れませぬ。其他小笹又小竹の類は前の方法では出來ないから鹽苦汁を葉に注ぎ掛けて挿けますとよく保ちます。

二〇、菊花の水揚法心得

一、菊花、は根元を炭火にて燒きます最も葉や花はぬれ手拭にてくる〳〵に卷き附て燒き根元一寸位が火になるまでを度として其のまゝ其の上から火のある所をよけて冷水を注ぎ倒にして火のあるまゝ冷水に漬けると二三時間の後には水揚りて挿けます、又は花瓶に沸騰せる湯を注ぎ込んで之に其の根元を挿し花瓶の口を閉ぐと花は一時に弱りますがこれを冷水に移すと勢を回復して、能く久しく保ちます。

二一、秋牡丹、桔梗、の二ケ條水揚法心得

一、秋牡丹、桔梗、の二種は菊花と同じ

二二、旋覆花の水揚法心得

一、旋覆花、は菊花と同じ

二三、煎紅紗、藤撫子、紫菜莉、の三ケ條水揚法心得

一、煎紅紗、藤撫子、紫菜莉、の三種は何れも其の莖の根元を割りて切けるとよく保ちます。

二四、朝顔の水揚法心得

一、朝顔は夕方になりて翌朝花の開くものを選んで之を切り取り其のまゝ紐で井戸の中に釣り置き、最も水の中に入れるのではありませぬ水面より二尺位はなして釣り置き翌朝取り出し挿けます。井戸のなきときは早朝に切り取りて花瓶の水に煙草の「ヤニ」を二割の割に混じて挿けますと花も早く咲き蕾も見る〳〵太くなり次〳〵と咲きて面白程であります。

二五、野菊、紫苑、龍膽、山椿、山茶花、茶の花、寒菊、款冬、枇杷、蠟梅、迎春梅、瑞香、八手、の十三ケ條の水揚法の心得

一、野菊、紫苑、龍膽、の三種は何れも莖の根元を炭火で焼き其の儘冷水に漬

け水揚りて生けます、又は切口に龍膏の粉を付けて挿けるもよい。

一、山椿、山茶花、茶の花、の三種は鹽水で挿けますと久しく保ちます、殊に椿、山茶花は花の落ち保きものであるから花の房に鹽水を入れて置くと容易に落花しません。

一、寒菊、款冬、の二種は、沙參を煎んじた汁を冷して瓶中に入れて挿けるか又は胡椒を割つて入れるもよい。

一、枇杷、ロウバイ、オウバイ、瑞香、八手、の五種は何れも莖の根元を一寸内外の間を削りて花瓶の底に硫黄一匁斗りを入れて挿けると花が能く保ちますのみならず水が凍るようなことがありませぬから大變よくあります。

四季草木水揚法 終

大正十年四月十五日印刷
大正十年四月十八日發行

定價金五拾錢

不許複製
四季草木水揚法

編者　大日本華道ひろめ會編輯局
發行兼印刷人　東京市牛込區東五軒町十一番地　勝盛省一
印刷所　東文堂印刷所

發行所
東京市牛込區東五軒町十一番地
大日本華道ひろめ會

343
1417

終